

FACULTY OF LETTERS

文学部生のリアルな！ 学生生活

Vol. 55

13専攻・1プログラムから成る文学部の充実したキャンパスライフと、文学部ならではの多様な学びの情報を発信します。

文学部って役に立つ？

地元の北海道を出るとき、「せっかく東京に出るのに文学部なんだった？ もっと役に立つことを勉強してくれたらよかったのにねえ」と言われたことがあった。「役に立つ」って何だろう？ 誰にとって、どう役に立てばいいんだろう？

世の中にやって無駄なことはないよなーと思う、とにかく広くたくさ



豊かな響きを求めて

文学部人文社会学科英語文学文化専攻4年
私立札幌光星高等学校（北海道）出身

こばやし
小林 ファビアーネ 千紘

んの経験ができそうというイメージから文学部を志望した私だが、実際入学してみても、その勘は当たっていたことがわかった。

履修した授業のバリエーションの豊富さ

私が中央大学文学部の中で英語文学文化を専攻した決め手は、英語を学ぶことで広がる世界の大きさだった。実際、入学してからは学科の必修授業としての英語学習はもちろん、資格取得のための講義など学習の機会が豊富に用意されており、授業や自学自習を通して留学に行ける程度の語学力を身につけることができた。在学中には大学独自のプログラム

である「グローバルスタディーズ」や「GSP（グローバル・ソシオロジ・プログラム）」、交換留学制度を通して、マレーシア、シンガポール、韓国、ハワイの4カ国で学習する機会を得た。中央大学には、常に身の回りや世界に視野を広く持ち、さまざまなことに挑戦して目標を達成するきっかけと環境がいつでも転

がっていた感覚がある。自分がその気にさえなれば、いつでも誰かが背中を押してくれた。

人のココロを動かす経験

サークル活動では、中央大学の公認部会であるビックバンドジャズ部「スウィングクリスタルオーケストラ」にて留学期間を除く約2年間活動した。学部や学年を飛び越えて、聴く人の笑顔のために一丸となって練習をする日々はかけがえのないものだった。中学、高校時代は吹奏楽部に所属し活動していたが、ジャンルは違えども、新たな環境下でまた同じ志を持つ仲間と音楽を続けることができてうれしかった。



ビックバンドジャズ部の定期演奏会

音楽経験を通じて芽生えた、「誰かの笑顔を支えたい」という気持ちは、先述したGSPでの研究にもつながった。私の研究テーマは「ヤングケアラーの自覚と支援について」。実際に身の回りに当事者がいたことが、このテーマを選ぶきっかけとなった。2023年の調査結果では、およそ17人に1人がヤングケアラーだといわれている。では、彼らが何に不自由なく笑顔になれる社会にするために私たちにできることはないのだろうか。研究では、実際にヤングケアラーの支援を行っている支援団体の方々とかかわる機会をいただき、自分たちの足でつかんださまざまな意見や情報を活かすことができた。



ソウル市立大学との合同研究発表



留学中友人と訪れたハワイ州ハワイ島
マウナケア火山にて



ハワイ大学と中央大学の提携記念式典にて

1年間の研究を終え、結果的には韓国のソウル市立大学の学生と合同発表や意見交流を行うことができたことも大きな自信へとつながった。

交換留学

南の島でさらなる挑戦を

私は大学3年次より交換留学制度を利用し、アメリカ合衆国ハワイ州にあるハワイ大学マノア校へ半年間留学した。この半年間は、間違いなく今までの人生で一番輝いていて幸せな時間だったと感じる。留学を決めた動機は、語学力を向上させ、専攻しているアメリカ文学を実際にアメリカで学んでみたいという気持ちと、「何か心を変えてくれるものとの出会いいたい」という思いだった。

ハワイ大学では専攻のアメリカ文学の授業はもちろん、さまざまな授業を履修した。とくに印象に残っているのは「Beverage crops」という授業で、カカオの実からチョコレートを作ったり、授業で先生によるウクレレの弾き語りを楽しんだり、南国ならではの経験ばかりで、とても楽しかった記憶がある。

留学期間中は勉強だけでなく、さまざまなことに挑戦した。部員30人越えのハワイ大学のマーチングバンド部に入部し新たな仲間たちと練習を積んだり、往復5時間の登山をしたり、ほぼ毎朝上達するまでサーフィンにも挑戦したりした。

ただ、交換留学生生活は楽しいことばかりではなかった。授業のレベルの高さ、部活動の練習のきつさ、また並行して行った就職活動が重くのしかかっていた。ついていくだけで必死な授業の課題をこなす中で、自分の将来について考え、行動を起こさなければならなかった。そんな辛い状況下でも諦めずに努力を続けることができたのは、ハワイでの日々

文学部だより

キャンパスメンバーズで知的好奇心を深めてみませんか

やくわ あみ
八鍬 杏実 文学部事務室

ご父母の皆さま初めまして。7月付で文学部事務室へ配属されました、新入職員八鍬杏実と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

4月から大学職員として業務に取り組んでいる中で、学生時代の自分に伝えたいことがあります。それは、大学という貴重な環境を思う存分活用し、もっと刺激的な経験を重ねて視野を広げてほしいということ。そして、自分の関心のあるものに、探究心をもって取り組んでほしいということです。

私事ですが、大学へ入学したのは2020年。コロナ禍により社会全体が停滞していた時期と重なったことで、1年生から2年生まで授業はすべてオンラインで実施され、大学へ通う機会は限られていました。制約がある中でできることはないかと始めた学生団体での活動や、ゼミに夢中になって取り組んだ経験が職員になった今、生かされている感じが多いです。

ご子女の皆さまにおかれましては、大学生活を貴重な機会として挑戦したいこと、興味のあることに取り組まれてはいかがでしょうか。社会に羽ばたいていくとき、大学でのご経験が思いがけない場面で

生かされるかもしれません。

そこで、皆さまの知的好奇心を育める「キャンパスメンバーズ」の制度についてご紹介いたします。文学部では、ご子女が豊かな教養と感性を育み、多角的な思考を身につけられる学修環境づくりの一環として、キャンパスメンバーズに加入しています。対象となる博物館・美術館の受付で学生証を提示していただくと、無料または割引料金で観覧ができます。私も学生時代にこのキャンパスメンバーズを活用して、さまざまな博物館や美術館に訪れました。特におすすめは、幅広い年代の西洋絵画を鑑賞できる「国立西洋美術館」です。文学部事務室入口には展示会の案内が掲示されていますのでご興味のある展示会へ足を運び、ぜひ制度をご活用ください。

このほかにも、文学部ではご子女の大学生活をサポートする制度が多くございます。何かお困り等ございましたら、お気軽に事務室へご相談ください。



キャンパスメンバーズを利用して訪れた国立西洋美術館

欲張りな大学生活

大学生活を振り返ってみて、私は「役に立つ」ことを学べたのかと問

われたら「いつか、どこかで役に立ちそうなことはたくさん学べましたよ!」と晴れやかに答えるだろう。中央大学に入学してから私がしてきたことは、一見すると欲張りなくらい挑戦の連続だった。その欲張りこそが、これからの人生に起こりうるどんなことにも対応できる精神力をもたらしってくれたと感じる。